

# 仕 様 書

## 1 件名

放射線影響研究所 50 周年記念誌制作業務

## 2 業務の目的

放射線影響研究所（以下、「当研究所」という。）は、2025 年 4 月に設立 50 周年を迎える。この節目を記念し、当研究所の歴史、研究実績、将来ビジョン等を掲載した記念誌（以下、「本記念誌」という。）を制作することを本業務の目的とする。

## 3 業務範囲

本記念誌の制作に伴う業務の範囲は次のとおりとする。

### （1）企画案

受託者は、当研究所が準備している本記念誌の企画案を精査した上で、よりよい企画にするための助言を当研究所担当者に与える。

### （2）編集

受託者は、上記企画を実現するための編成方針を立案し、当研究所担当者と受託者の協議によりその方針を決定する。日本語版をもとに、英語版も制作する。

#### ① デザイン

当研究所が、用意する日本語版の原稿、英語版の原稿をもとに、受託者は、表紙及び本文全般にわたるデザインと割り付けを行う。テキスト原稿及び研究所ロゴはすべて当研究所が提供する。表紙は「放射線影響研究所 50 周年記念」をテーマとしたデザインとし、本誌全体のトーンとマナーを表紙と統一する。また表紙のデザインは、2025 年 6 月に開催予定の当研究所の記念式典の配布物、会場サインなどでも使用する。

#### ② 編集及び校正

受託者は、文字原稿や写真原稿等に関する整理・校正等の編集業務全般を実施する。入稿にあたっては、当研究所担当者が掲載に適すると認めた完全原稿であることを前提とする。なお、用字用語等表記の統一については、当研究所担当者と受託者が協議の上、あらかじめ定めた基準に従うこととし、校正は、原稿及び校正紙それぞれについて、当研究所担当者と受託者双方による 2 校とし、色校正については 1 校とする。なお、必要に応じて念校を行う場合がある。

### （3）印刷・製本・加工

受託者は、印刷・製本・加工を行うこと。

### （4）電子ファイルの作成

受託者は、研究所担当者と協議の上、ホームページに活用可能な電子ファイルを作成すること。ファイル形式は後述の「5 最終成果物」（2）を参照。

(5) その他

受託者は、これらに付随する一切の業務を行うこと。

#### 4 業務実施条件

- (1) 本記念誌は、後述の「6 記念誌の内容」に沿って編集するものとするが、受託者は、適宜、当研究所担当者と協議の上、修正及び加工並びに追加等に対応すること。
- (2) 受託者は、当研究所担当者に対して定期的に報告又は打合せを行い、契約履行期限内に完成すること。
- (3) 受託者の管理責任者及び主たる担当者に求める実績等の要件は以下のとおりとする。
- ① 管理責任者  
同種業務（大学、研究所、病院又は企業の記念誌及びPR誌等の企画編集業務）に5件以上の実績を有し、そのうち1件以上は過去5年以内の実績であること。
  - ② 主たる担当者  
同種業務（大学、研究所、病院又は企業の記念誌及びPR誌等の企画編集業務）について、過去5年以内に1件以上の実績を有すること。

#### 5 最終成果物

- (1) 記念誌：1,000部（日本語版）／500部（英語版）  
サイズ：A4  
綴じ：無線綴じ  
色：全ページカラー  
使用用紙  
・表紙：OK 特アートポスト＋46判 180kg  
・本文用紙：ニューVマット 46判 90kg  
・見返し用紙：STカバー 色未定 Y目のみ 46判 115kg
- (2) 電子ファイル（日本語版、英語版各1部ずつ）  
PDF形式、及びイラストレーター等の編集が可能な形式

#### 6 記念誌の内容

本記念誌は、【別紙1】を基に制作し、必要に応じて当研究所担当者と受託者が協議しながら項目の追加、削除、順序の入換等内容構成の変更を行う。

#### 7 納品

納品日：2025年6月2日（月）までに納品のこと

納品場所：当研究所の広島研究所、及び長崎研究所

広島研究所 日本語版：920部／英語版：480部

長崎研究所 日本語版：80部／英語版：20部

## 8 その他

- (1) 業務の作業方法や順序及び作業実施に必要な事項など業務の詳細については、事前に当研究所担当者と十分な打ち合わせを行い作業を進めること。
- (2) 著作権等について
  - ① 本記念誌の著作権は当研究所に帰属する。
  - ② 本業務の実施に当たり、第三者の所有する著作、肖像等については、本人等に確認・同意を得た上で使用するものとする。
- (3) 納品後、落丁等の不良品がある場合は、1年間は、受託者が無償で良品と交換すること。また、当研究所から不良品の連絡を受けた場合は、指定された住所へ受託者が自己負担で良品を送付すること。
- (4) 本業務に関して知り得た情報を第三者に漏洩してはならない。
- (5) 本仕様書に定めのない事項や業務の遂行にあたって疑義が生じた場合については、当研究所担当者と協議の上決定することとする。

「50年の歩み」の目次

※()内は、ページ番号

挨拶

- ・ 神谷理事長のことは (P2)
- ・ Rajaraman 副理事長のことは (P3)

被爆者への感謝のことは (P5)

目次 (P6、P7)

I. 沿革 (P9)

1. 設立の趣旨 (P10)
2. ABCC 創設より現在まで (P11)

II. 研究活動 (P13)

1. ABCC—予研共同研究活動のあらまし (P14)
2. 放影研の主要研究プログラムの概略 (P14～17)
  - A. 原爆被爆者の調査 (P14～17)
    - 寿命調査 (P14～17)
    - 成人健康調査 (P14～17)
  - B. 胎内被爆者の調査 (P14～17)
  - C. 被爆者の子ども(被爆二世)の調査 (P14～17)
    - 死亡調査 (P14～17)
    - 臨床調査 (P14～17)
  - D. 放射線量の推定 (P14～17)
  - E. 分子生物学的研究 (P14～17)
    - 細胞遺伝学調査 (P14～17)
    - 生化学遺伝研究 (P14～17)
    - 分子遺伝学研究 (P14～17)
3. 主要プログラム 50 年間の成果 (P18)
  - A. 原爆被爆者の調査 (P18)
    - ・ 寿命調査 (P18～P21)
      - 死亡、がん罹患 (P18～P21)
    - ・ 保存試料を使用した研究 (P22)
      - 特別がん調査 (P22)
    - ・ がん以外の疾患ならびに異常 (P23)
      - 成人健康調査の調査結果 (P23～P27)
        - (AHS 報告書についての記載)
      - 特別臨床調査 (P23～P27)
        - 循環器疾患(死亡・発生) (P23～P27)

肝疾患 (P23～P27)

甲状腺疾患 (P23～P27)

白内障 (P23～P27)

良性腫瘍 (P23～P27)

成長・発育 (P23～P27)

【コラム】調査継続に係る活動 (P28)

B. 胎内被爆者の調査 (P29～P30)

死亡、がん罹患 (P29)

成人期のがん以外の疾患 (P30)

C. 被爆者の子ども (被爆二世) の調査 (P31～P34)

死亡、がん罹患 (P31)

臨床調査 (P32)

細胞遺伝学調査 (染色体異常) (P33)

遺伝生化学調査 (血液蛋白質変異) (P34)

D. 被曝線量の推定と原爆被爆者の調査への適用 (P35～P37)

物理的線量推定 (線量推定体系と臓器線量推定) (P35)

線量推定値の誤差とリスク推定 (P36)

生物学的線量推定 (染色体異常、歯のエナメル質を用いた電子スピン共鳴)  
(P37)

E. 分子生物学研究 (P38～P44)

分子遺伝学研究 (DNA 縦列型反復配列変異、二次元電気泳動法やマイクロア  
レイを用いた DNA 変異、全ゲノム塩基配列解読による変異解析) (P38～P40)  
造血免疫系研究 (体細胞変異、クローン性増殖、免疫細胞、サイトカイン)  
(P41～P42)

放射線関連がん研究 (肝がん、皮膚がん、甲状腺がん、発がん感受性)  
(P43～P44)

F. 重要な研究資源 (P45～P47)

バイオサンプル研究センター (P45)、情報科学とその整備 (ITD) (P46～P47)

G. 研究を支援する活動

外部機関との共同研究 (P48)、腫瘍及び組織登録・がん登録 (P49)、IRB (P50)

III. 世界・社会への貢献 (P53)

1. 国際防護基準策定への貢献 (P54)

2. 海外の被爆者健診 (P55)

3. 放射線事故への対応 (P56)

4. 研修等 (訪問者を含む) ※地図を含む (P57～P59)

IV. 組織について (P61)

・組織の変遷、役職員の推移、研修受け入れ人数等 (P62)

・これからの放影研 (全体戦略) (P63)

V. 施設 (P65)

- ・ 広島研究所 (P66)
- ・ 長崎研究所 (P67)

VI. 年表 (P69～P73)

VII. 参考文献 (P74～P78)

※注意事項：全体のページ数：78 ページ (表 1、表 2、表 3、表 4 別)